

あやせ市民討議会  
～考えよう！みんなの公共施設の未来～

実施報告書

平成27年9月  
綾瀬市

# 目次

1	市民討議会とは	1
2	あやせ市民討議会の概要	1
	(1) 目的	
	(2) テーマ	
	(3) 開催日時等	
	(4) 参加者	
	(5) 特徴	
3	討議の進め方	3
	(1) 討議テーマ	
	(2) 情報提供	
	(3) 討議方法	
4	討議の成果	7
	(1) 討議1回目「公共施設って必要なの？」の成果	(7)
	(2) 討議2回目「施設を見て感じたこと」の成果	(18)
	(3) 討議3回目「今後の公共施設のあり方」の成果	(28)
5	まとめ	39
	(1) 意見集約	
	(2) 全体の振り返り・評価	
	参考資料	43
	(1) 施設概要（南部ふれあい会館・綾南地区センター）	
	(2) アンケート集計結果	

## 1 市民討議会とは

市民討議会は、無作為に抽出された市民が一定のテーマについて討議を行い、意見をまとめる市民参加の仕組みの1つであり、普段、声を上げる機会の少ない市民（サイレントマジョリティ）が行政に参加するきっかけを提供するものである。

まとめられた意見は、市民の声として行政に届ける新しい形の市民参加の手法としても注目されており、その基本的な特徴は、次の5つが挙げられる。

### ① 無作為抽出

住民基本台帳に基づき、公平かつ無作為に参加候補者を抽出する。これにより、男女比率、年齢構成など、幅広く参加者を募る。

また、市民に直接的に参加を呼び掛けることにより参加意欲を刺激し、これまで行政に意見を言う機会の少なかった市民に対し行政への参加を促す効果がある。

### ② 報酬の支払

労働の対価として、参加者に一定の報酬を支払い、市民参加意識を高めることにより、討議において積極的かつ責任のある意見を引き出せる。

### ③ 専門家等からの情報提供

討議では冒頭に、公正、中立な立場から、行政や専門家が討議の基礎となる情報を提供することで、基礎知識のない参加者でも議論に公平に参加できる。

### ④ 話し合い・意見集約（発表・投票）

討議方法は、少人数のグループによる話し合い及び意見集約の後、集約意見の発表と全参加者による投票により、最終的な結論を導く。

### ⑤ 報告書の公開・提出

討議結果は、報告書としてまとめ、市長に提出し公開する。

## 2 あやせ市民討議会の概要

### （1）目的

「綾瀬市公共施設マネジメント基本方針」（以下「基本方針」という。）の策定や今後の公共施設の適正配置、長寿命化、効率的な維持管理を行うに当たり、人口減少、更新時期の集中、財源不足など公共施設の抱える課題やその解決策に関する市民との情報共有、適正配置アクションプラン（行動計画）（以下「アクションプラン」という。）策定と実施に向けた意見募集を行うことを目的として、市民討議会を開催した。

### （2）テーマ

「公共施設が抱えている課題を共有し、解決策をみんなで考えよう」

### (3) 開催日時等

**1日目** 7月26日(日) 9時から16時 綾瀬市消防本部2階講堂

時間	内容
9:00	開会
9:10	開催趣旨説明、綾瀬市公共施設調査報告書等に関する説明、討議の進め方についての説明 等
9:40	講演会(政策シンクタンク PHP 総研 主任研究員兼シニアコンサルタント 佐々木 陽一氏)
11:00	自己紹介含む練習討議
12:00	昼食
13:00	討議1回目 “公共施設って必要なの?”
15:05	発表
15:45	講評
16:00	事務連絡、解散

**2日目** 8月2日(日) 9時から16時 綾瀬市役所6階視聴覚室

時間	内容
9:00	南部ふれあい会館と綾南地区センターの現地視察
11:00	討議2回目 “施設を見て感じたこと”
12:00	昼食
13:00	発表
13:50	討議3回目 “今後の公共施設のあり方”
15:00	発表
15:30	講評
16:00	閉会、解散

### (4) 参加者

公募委員候補者名簿に登録している市民17名と、綾瀬高校及び綾瀬西高校に通う生徒6名の計23名が参加した。

公募委員制度とは、審議会等の市民参加について、一般公募による参加者の固定化を解消するために、平成27年度から導入している制度であり、「公募委員候補者」とは、公募委員制度に登録いただいている方々です。公募委員への登録は、無作為抽出した市内在住の20歳以上の方2,000名へ依頼させていただきました。平成27年4月1日現在、91名が登録されています。

### (5) 特徴

今回の討議会は、市民討議会の基本的な実施形態をアレンジして実施した。主な改良点は、次のとおりである。

① 公募委員候補者名簿登録者から参加者を募集

公共施設の利用状況や興味の有無に関わらず、広く市民の意見を聞くために、公募委員候補者名簿に登録された市民から参加者を募集した。

② 高校生の参加

「基本方針」の期間が40年間であることから、将来を担う若い世代の意見も聞くために、市内の高校に通う生徒の参加者も募集した。

③ 同一グループでの連続した討議

短期間での議論の連続性の確保、慣れ親しんだメンバー間での議論の活発化を期待して、全ての討議を同一グループで連続して行なった。グループ分けについては、世代、男女、高校生比率を考慮し、事務局が事前に決定した。

④ 投票の未実施

各グループの意見集約の結果、集約した意見が共通していたことから、投票は実施しなかった。

### 3 討議の進め方

(1) 討議テーマ

**(全体テーマ)「考えよう！みんなの公共施設の未来」**

【各回の討議テーマと狙い】

① 練習討議 (7月26日午前) :「ブレーストーミング」

自己紹介、行政、専門家からの情報提供などの感想を基に、練習討議を行う。

② 討議1回目(7月26日午後) :「公共施設って必要なの？」

情報提供(行政説明、専門家講演会)を受けて、市全体として公共施設が直面する課題を出し合い、相互に理解を深める。討議では、「各世代」「納税者」「利用者・非利用者」「財産所有者」としてのそれぞれの立場から、経営的視点に立った「公共施設のあり方」を議論するという出発点を参加者が共通認識する。

また、「現地視察」でのチェックポイント、以後の討議に向けた「公共施設のあり方」に関する課題意識や論点を明確にする。

③ 討議2回目(8月2日午前) :「施設を見て感じたこと」

討議1回目で明確になった各人の課題意識を基に、現地視察を通じて確認できた課題、新たに気づいた課題などを出し合い、公共施設全体に共通した課題をさらに明確にし、課題解決に向けて、どのような方向性(あり方)で対応していくべきかを絞り込む。

#### ④ 討議3回目（8月2日午後）：「今後の公共施設のあり方」

討議2回目で絞り込まれた論点を基に、各グループの総意として、公共施設全体に通じる適正配置の「方向性」（あり方）とその「具体的な対策案」をまとめる。

## （2）情報提供

公共施設マネジメントに関する基本的な予備知識を得ることで、参加者の活発な討議が促進されることを目的に、行政及び専門家により情報提供を行った。

### ① 行政（政策経営課）の情報提供

グループ討議に先立つ情報提供として、行政から公共施設の現状、抱えている課題、取り組んでいる内容の説明を行った。

#### ●「公共施設調査報告書」の策定

平成25年に策定された「調査報告書」では、現状、課題等を受けて「施設の有効利用の方向性」がまとめられており、その要点は、①施設総量の削減、②多目的利用の推進、③適正な受益者負担、④施設の長寿命化となっている。

いずれも、公共施設の維持管理コストの削減、老朽化した施設の改修、建て替え等に伴う費用を確保するためには、必要な対策であると考えているが、単純に公共施設の総量を削減するのではなく、サービス水準は維持しながら、市民の利便性を向上させていく必要があると認識している。

#### ●「公共施設適正配置に向けた市民意識調査」の実施

平成26年2月に無作為に抽出した18歳以上の市民、2,000人を対象に調査を実施した（有効回収率は、24.6%、491人から回答）。

調査結果は、「公共施設の利用頻度や今後どのような施設から統廃合等していくべきか」の問いに対し、利用頻度では、「ほとんど利用していない」が58%、「どのような施設から統廃合していくべきか」では、「利用者の少ない施設」が44.8%という結果になった。

市では、庁内検討組織を設置し、調査結果や本討議会での議論等を基に今年度中に「基本方針」を策定する。

#### ●「公共施設マネジメント基本方針（素案）」について

「基本方針（素案）」の期間は、公共施設の更新時期の集中や施設の耐用年数などを考慮し、平成28年度から67年度までの40年間を対象期間としている。

現存する公共施設は、昭和40年から50年代の人口増加に伴い、集中的に整備され、現在、その68%が建設から30年以上経過している。

これらの公共施設は、順次、大規模改修や建て替えが必要になるが、今後、人口減少、少子高齢化、市民ニーズの多様化、更新時期の集中による財源不足など多くの課題に直面しており、これらを解決していく必要がある。

これらの課題に対し「基本方針（素案）」では、次の3つの柱を掲げ、施設の適正な維持管理、コスト削減、適正配置、総量削減を実現するための基本的な取り組みを推進することとしている。

- (ア) 適正な維持管理の推進・財源確保
- (イ) 長寿命化の推進
- (ウ) 総量の適正化・適正配置

なお、今後は「アクションプラン」も策定する予定である。

## ② 現地視察の情報提供（生涯学習課）

現地視察先である「南部ふれあい会館」「綾南地区センター」については、視察に先立ち施設情報をまとめた「施設概要」を参加者に配布し、視察当日は、両施設の所管である生涯学習課から施設の現状、課題について情報提供を行った。

## ③ 専門家の情報提供（PHP総研）

政策シンクタンクPHP総研主任研究員兼シニアコンサルタントの佐々木陽一氏が専門家の立場で、「みんなの公共施設の未来を考えるために」と題して、次のような情報提供を行った。



### ●必ず起こる公共施設更新問題

「基本方針（素案）」によると、市保有の公共施設の向こう40年間の更新経費が年額約24億円と試算されている。これに対し、施設更新経費の財源となる投資的経費は年額約9億の不足が確実視されている。この規模は、市が取り組む集中改革プランの経費削減効果を凌駕する規模で、この差額をどう埋めるかが課題とされた。

### ●公共施設は市民財産

時価総額で見た場合、市が保有する公共施設の資産価値は、多くの東証1部上場企業（例えば、スルガ銀行）に匹敵する規模になる。それだけに、公共施設を市のまちづくりに資するよう適正に配置し直していくこと、同時にそれは「出るを制す」と「入りを量る」ことが重要という指摘がなされた。

### ●公共施設のあり方をより良く変えた事例紹介

全国の公共施設の適正配置の事例が紹介され、具体的に「出るを制す」では、公共施設の機能複合化により、公民館を地域づくりの拠点施設に進化させた例などが紹介された。

また、「入りを量る」の例では、議場をコンバージョン（用途転換）した公共施設への公益サービス機関の誘致、公共施設の屋根貸し太陽光発電事例などが紹介された。

### ●視察の狙いと市民討議会の進め方

市民討議会での現地視察やグループ討議を念頭に、集会系施設の位置づけと視察のチェックポイント、討議を進める上での留意点が解説された。参加者全体で討議の目的や視点が共有され、討議へのスムーズな移行が図られた。

### (3) 討議方法

#### ① 討議方法

討議は、4グループに分かれ、各グループには、コーディネーター1名（進行役）と補助係1名（市職員）を配置し、適時適切な助言、進行補助を行った。

討議の流れは、まず1日目の午前中に、以降の活発な討議を促すため、メンバー相互の自己紹介などを交えながら練習討議を行い、同日午後以降の討議では、「発表係」を決めて、成果発表を行った。

#### ② 討議のルール

(ア) 1枚の付箋紙につき、1つの意見を記入する。

(意見の要旨を分かりやすくし、整理しやすくするため)

(イ) 全員が発言する。

(全員で討議し、グループの意見としてまとめるため)

(ウ) 簡潔に発言する。

(全員でたくさんの意見を出し合うため)

(エ) 他の意見を批判しない。

(各人の意見を尊重しながらより建設的な意見を出し合い、より良い提案をまとめるため)

#### ③ 討議の流れ

(ア) 参加者は、テーマについて、各自で思いつく意見やアイデアを付箋紙に書き出す。



(イ) 進行役を中心に、テーマについて意見交換を行う。



(ウ) 各自が意見を発表しながら、意見を記入した付箋紙をテーブル上の模造紙に貼り出す。



(エ) 進行役、補助係を中心に、KJ法（各自が貼り出した付箋紙で関連したり、同じような意見や種類を繋ぎ合わせたりして整理、統合する手法）でグルーピングを行い、幾つかにグルーピングができれば、さらに大きなブロックにまとめたり、見出しを付けたりして、意見の大意をまとめる。



(オ) 討議毎に、グループの成果発表を行う。



## 4 討議の成果

※各討議（1回から3回）の各グループの意見の詳細は、「全体の成果」の後の「意見集約シート」（A3資料）参照

### （1）討議1回目「公共施設って必要なの？」の成果

#### 1グループの発表要旨

##### ① 情報発信が不足している

- ・申込み方法、開館時間、用途、使用目的が分かりづらい。
- ・イベントが周知されていない。
- ・どの所管が施設を所有しているかが分からない。
- ・費用の流れも分かりにくい。
- ・使用目的が限られていることも課題である。例えば、児童館のように、限られた世代しか使用できない施設があり、どの世代も一緒に使える施設にしていくことも必要ではないか。



《写真：意見をまとめた模造紙》

##### ② 世代で利用状況に違いがある

- ・子育て世代と高齢者世代は、公共施設を利用しているが、現役世代は施設を利用していない。
- ・子育て世代にとっての課題は、学童保育、児童館のように機能は同じだが、施設が複数に分かれている。

#### 【課題解決の方向性】

- ◆同じような施設（機能）を一本化してはどうか。
- ◆子育て世代のサービスを充実させる。例えば、学童は無料にするとか、プラザと学童は、キャリアのある高齢者を活用してはどうか。

- ・施設名称が利用者を遠ざけているという課題もある。例えば、児童館だと少し上の世代が行きづらい、高齢者を連想させる施設だと、その下の世代が利用しづらい。
- ・現役世代は、公共施設を最も使っていない世代である。時間はないがお金はあるので、そもそも公共施設を利用する必要性がないのかもしれない。

#### 【課題解決の方向性】

- ◆現役世代への対策として、施設名称を変えること、多世代が通いやすくなるように、他施設と複合化する。

### ③ その他の課題など

- 行政と市民のコミュニケーションの場が少ない。
- 古い建物のバリアフリー化が遅れている。
- 太陽光発電で公共施設のコスト削減を行ってはどうか。
- 文化会館のように命名権を売ってお金にしている取り組みを、他の公共施設に広げてはどうか。
- 将来的に小・中学校に空き教室が生まれる。そこに子育ての場や、高齢者世代の交流の場を設けることが求められるのではないか。
- 警察署や年金事務所が地元にあると便利になる。
- コンビニで住民票の交付等のサービスを受けられると良い。
- 今後、公共施設を改修する場合は、他用途に転用しやすくするように考えておくことが大切である。

## 2グループの発表要旨

### ① 利用率が低い

- 全体として公共施設はあまり利用されていない。
- 実際にグループ内でも、公共施設を使っている人は凄く少ない。
- 利用者の年齢層が偏っている、駐車場が少なく、行きにくいことも課題である。



《写真：意見をまとめた模造紙》

### ② PRが不足している

- 利用率が低いこととも関連しているが、公共施設がどこにあるのかわからない、使い方がわからないので利用しない、使い方がどこで情報発信されているかわからないので使わない。

### ③ 公共施設の定義が不明

- 公共と民間の区別、市と自治会区が所有する施設との区分が良く分からない。定義が曖昧。

#### 【課題解決の方向性】

##### ◆公共施設を民間委託する。

民間委託によって公共施設の量を少しずつ減らしていく。例えば、市営住宅や生涯学習施設などの必要性についての検討も必要である。

##### ◆広域化する。

公共施設の中には、海老名市、座間市と共有して使える施設もあるのではないかな。

##### ◆需要を予測する。

将来的に人口が減少し、公共施設の建て替えピークが多量かつ同時に到来するという課題があるので、その需要予測を事前にしっかりやっておくべきである。

##### ◆学校についてしっかり考えていく。

学校は、市全体の公共施設の延床面積全体の約6割を占めるので、やはり学校施設の使い方を効率化していくことがとても重要である。市の公共施設の適正配置に向けて避けて通れぬ課題だからこそ、今後もしっかり議論していく必要がある。

##### ◆必要なものは増やす。

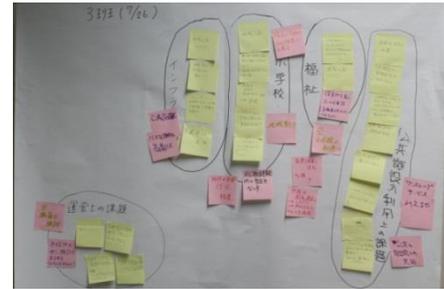
減らすべき施設は減らす必要があるが、減らした分を必要な施設に回していく必要もあるのではないかな。例えば、子ども、若い世代に役立つ施設、行政施設内でのICT化などである。

★以上の議題を話し合い、全体としては、意見集約シートにおいて、横軸上で「必要と思われる施設」を右側、左側は「必ずしも必要と思われない施設」を左側、さらに、課題のうち、抽象的な内容は「上」、具体的な内容は「下」に貼って、課題のグループ分けを行った。

### 3グループの発表要旨

#### ① 公共施設の利用率が悪い

- ・「市民サービス上、公共施設は一応必要なのではないか」という意見がある一方で、「公共施設をどのように使えるのかが分からない」という意見も多かった。



《写真：意見をまとめた模造紙》

#### ② 公共施設を使いづらくしている原因が多数ある

- ・そもそも、公共施設は何ができるのか、どこにあるのか。施設の利用方法が市民に良く分からないという声が多かった。
- ・若い年代の参加者からは、公共施設の利用者は年配の人が多く、若い人が入って利用しづらいという意見があった。
- ・こうした理由が公共施設は使いづらいというイメージを作っているのではないか。
- ・早川城山地区では、当初学校予定地としていた土地をグラウンドとして利用している。本来の目的で使わないなら、売却や住宅地など他用途への転換を考えた方が良い。
- ・利用者負担より施設の維持費の方が多いのではないか。(逆転している)

#### 【課題解決の方向性】

- ◆各施設では、いろいろやっているようだが、その内容が市民には分からない。そもそも、公共施設では、何をやっているのか、何ができるのかということの見える化が必要である。
- ◆公共施設（集会施設）と自治会館は、機能がダブる可能性が高く、自治会館も老朽化してくるので、資源（リソース）をある程度統合する必要がある。

#### ③ 福祉の観点からは、公共施設は必要

- ・福祉の観点からも公共施設の課題を考えた。前提としては、公共施設は、市民一人ひとりのために必要だろうという意見が出た。例えば、少子高齢化が進む中で、老人ホームなどの福祉施設の数が少ないのではないか。
- ・その対策として、他自治体でもやっているように保育園と老人ホームが併設することで、高齢者の生きがいつくりに役立ち、子どもたちにも良い影響があるのではないか。

#### 【課題解決の方向性】

- ◆統廃合を行った場合に、空いた学校施設を民間会社に貸し出したり、老人ホームにしたりするなど、他の利用方法が色々考えられる。
- ◆小学校については、10校区があるが、学区見直しにはメリット、デメリットがある。学区割を見直すべきとする意見、小中学校校区をそこまで見直す必要はないという意見がそれぞれ出された。小学校が多いので、学校区の重なりの原因になっているのではないか、登校の目安として、小学生の徒歩で15分圏内にあるのが理想的ではないか。

#### ④ その他インフラに関する課題

- 下水道の見直しの必要性、市全体を網羅していないので、コミュニティバスの路線と本数の見直し、他の交通機関との連携が必要である。

#### ⑤ 公共施設の運営上の課題

- 各施設の職員が暇そうにしている。学校、役所などの縦割り制ではなく、連絡を取り合うことで、公共施設がより利用しやすくなるのではないか。
- 公共サービスを最寄りの駅、例えば、さがみ野駅、長後駅に公共サービスを提供できるような機関を設けることや、最大限ICT化することで各種申請などができるようにする。

#### **【課題解決の方向性】**

- ◆結論としては、市職員や議員がよく検討し、速やかに、スムーズに公共サービスが提供できるようにする。
- ◆市役所庁舎内にいろいろな施設を取り込んだり、また、敷地内は樹木が多く緑豊かなので、子供たちが遊べるような施設も考えてもらえると良い。

## 4グループの発表要旨

### ① 配置の課題

- ・適切な配置と数が考えられているのか。
- ・公共施設の配置に市民の要望等が入っているのか。
- ・配置の根拠となる人口密度や交通の便は考慮されているのか。

#### 【課題解決の方向性】

- ◆これらの対応策として、人口密度を明確化し、施設の設置場所のあり方としては、交通弱者へのフォローを含めたアクセスを考えていくべきである。  
住民全体のアクセスという点では、学校のある場所が公共施設の立地場所としても1番良いと考えられる。



《写真：意見をまとめた模造紙》

### ② 必要性の課題

- ・不要な施設には、“あれば良いなあ” ぐらいの施設が多く含まれている。
- ・これといった特徴が見い出せない。
- ・声の大きい人の影響で出来てしまった公共施設が多いのではないか。

#### 【課題解決の方向性】

- ◆優先度を決め、優先度の低い公共施設は捨てていくということを考えなくてはならない。  
公共サービスでしか提供できないものを選定していく。民間にお願いできるものは全て委託していくという考え方も必要である。

### ③ 少子高齢化の課題

- ・子育て世代が移住できる、人口が増えるような政策を立てるべき。市のまちづくりとの関連では、滞留ゾーンを拡大したような商業地区が必要ではないか。

### ④ 情報発信の不足の課題

- ・市の財政状況や各施設で利用できるサービス内容の情報が市民に知られていない。
- ・各施設間で利用状況を比較できない。
- ・市HPの情報をもっと発信し、市民の目に入るようにすべきである。

### ⑤ 評価・利用の課題

- ・各施設にかかっているコスト、利用状況や稼働率が一覧で分かるようになっていっていると評価しやすい。

### ⑥ 有効利用の課題

- ・あまり公共施設の設置目的を限定せず、幅広い使い方ができるようにする。

## ⑦ コストの課題

- ・いろいろな要望があって公共施設が造られてきたと思うが、公共施設を造る時の過程（流れ）の透明化が課題である。

### 【課題解決の方向性】

- ◆ 今後は、第三者の意見やコストの課題を含めて、見える形で決めていくようにすべきである。

## ⑧ モノからサービスへの転換の課題

- ・ハコモノだけでなく、施設の中味（機能）の見極めが重要だ。
- ・維持管理等については、すでに市内の公共施設では、シルバー人材センター等を活用しているという説明もあったが、そうした取り組みをもっと進めて、運営を効率化していくことが必要である。

## 討議1回目：全体の成果

- ・複数のグループが指摘した意見に着目し、討議1回目の全体成果（課題・論点）を次のように整理した。

### ① 利用率が低い

- ・公共施設の利用者は、高齢者世代、子育て世代が中心だが、その数が多いわけではない。利用者の固定化も見られる。
- ・現役世代については、公共施設の利用者数が極めて少ないところか、存在そのものの認知度も低い。

### ② 公共施設を利用しづらい

- ・公共施設を利用しづらいと感じる理由は、世代によって様々である。
- ・未利用者や、ほとんど利用していない人に共通する理由は、そもそも、公共施設の立地場所、利用可能サービス、利用方法を知らないというものが多い。

意見集約シート（1グループ）

メンバー	男性 10代	男性 50代	男性 60代	討議 1 回目 〔平成27年7月26日〕 テーマ “公共施設って必要なの？”
	女性 20代	女性 30代	女性 60代	

情報発信の不足

施設の利用方法の発信が少なく、利用しにくい

使用目的(何が出来る施設なのか?)が分からない。※アピール不足?

そもそも市で運営しているものなのか? 県?国?民間?わかりづらい

地区センターなどの催し物を周知してもらうためにどのような方法があるか。“広報あやせ”はどのくらい読まれているか

公共施設の利用方法の発信が少なく、利用しにくい

催し物やイベントのPR方法が活発ではない

市としてアピールできるものがない

幅広い年代の方が利用(ふれあえる)施設が少ない

あまり市のお金の流れが知られていない

そもそも誰のものかが分からない。(施設がどういふものかという基本情報がない)

その他

使用年齢層が偏っている。子供(小学生くらいまで)～高齢者(70歳以上)

公共の工期が長いのはなぜか

プール等、個人が使える施設がない(健康維持)

コンビニ等で住民票がとれない→市民サービスをあげるのは重要

自治会の力が強い(地域慣習)

道路に歩道がない(段差、ポール、夜はこわい)

市役所のギャラリー等の市民開放度か?

住民票の取得を民間に委託すべきでは?(市役所までが遠い)

施設が独立していて関わりを持ちづらい。見えにくい

坂が多い

施設がバラバラと点在していて“近い”という行き易さと共に、目的ごとに場所を変えなくてはいけない行きづらさもある

市と市民のコミュニケーションの場がない

建物の老朽化が進み、バリアフリーの処置が進んでいない

子供の遊び場としては公園しかない

“児童館”では子供しか行けないという意識がある

子育て世代が利用する施設  
・「学校プラザ内」+「学童」(学校と別の箱)  
・「児童館」: 無料→3つしかないから?  
・「在宅」+公園

高齢者の方を活用して施設運営をしていく、子育て世代向けの公共施設は拡充していく

子育て(環境)充実させるべき(できれば無料で)

「プラザ」+「学童」で高齢者の活用。(生活リズム、引きこもり避け、予防医学)

施設の名前が利用者を遠ざけている

子育て世代

魅力がないから使わない

働き世代は稼ぎがあるので、公共施設で困っていない

公共施設に頼らなくても良い世代が多い? 興味薄い。頼っている人は、高齢者・子育て世代

働き世代にとって公共施設は「魅力」がない

イメージ(施設の)が暗い。～福祉会館 etc(ネーミング)が暗い

働き世代向けに開かれた公共施設がない(偏っている)

イメージづくりが必要

施設名を変える、各世代が通える複合施設をつくる

働き世代(現役)

高齢者→社会参加を促す窓口として活用

老人会(敬老会)の活動は手狭→中央公民館、海老名ウィングを使っている

利用者講習が面倒(手続きなどがわかりにくい)、説明(講習)の頻度などがわかりにくい

手狭で使いにくい。(展示会、数人くらいならよい)

高齢者が新しいサークル活動へ入りにくい

自治会館の規模が中途半端

公共施設は良くも悪くも手続き重視。これが利用者を遠ざけている

簡単に利用できるようにする

高齢者世代

運転免許・年金事務所 → 綾瀬市は不便

太陽光パネルを公園や施設に設置し、経費を削減すると同時に、環境に配慮していることを市内外にアピールする

文化会館のように施設のネーミングライツを募集して資金源にしてはどうか

将来、小中学校に空き教室が出来た場合の利用方法。・子育ての場・高齢者の交流の場

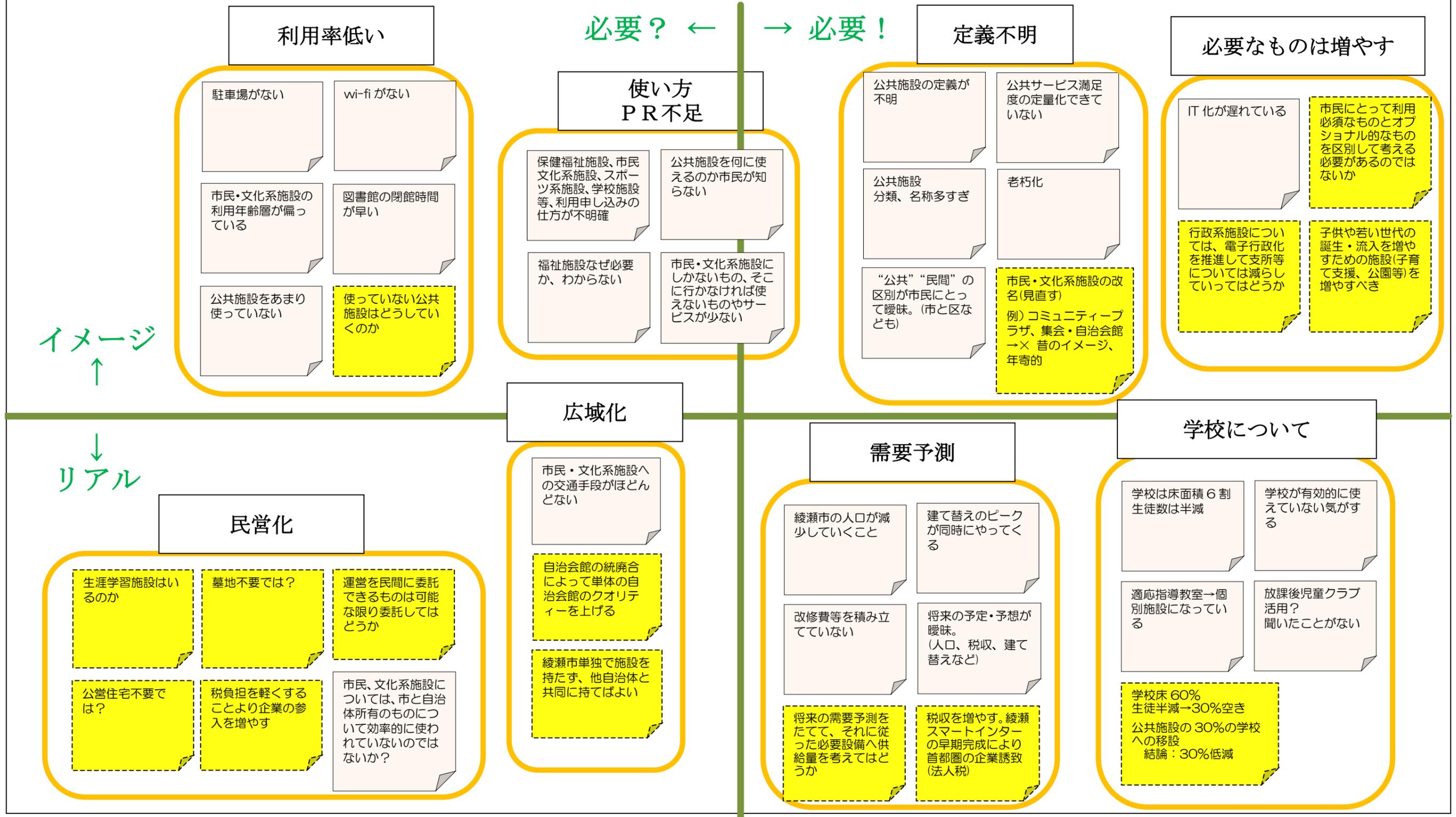
方向性

凡例：  公共施設の課題  課題解決の方向性

あやせ市民討議会 ～考えよう！みんなの公共施設の未来～

意見集約シート（2グループ）

メンバー	男性 10代	男性 10代	男性 20代	討議 1 回目 〔平成27年7月26日〕 テーマ “公共施設って必要なの？”
	男性 50代	男性 50代	男性 60代	



凡例: 公共施設の課題 課題解決の方向性

あやせ市民討議会 ~考えよう! みんなの公共施設の未来~

メンバー	男性 50 代	男性 60 代	女性 10 代	討議 1 回目 〔平成 27 年 7 月 26 日〕 テーマ “公共施設って必要なの？”
	女性 20 代	女性 40 代	女性 50 代	

運営上の課題

職員が暇そう

市職員の検討

市役所の中に施設をまとめる(大きくて立派なので)

学校、役所、図書館 縦割りでもう少し共有化

公共サービスを駅近で出来ないか。どこまで市役所に行かないで出来るか

IT化出来るものは、IT化(見える化)

小学校

地域のため

地域割り

小学校が多く、学区の重なりがあるのでは？

小・中学校はこれ以上増やさなくて良いと思う

施設の区分け、種類分けが必要 → 重複

市内小学校 10 校の学区を廃止した方がよい。(学区外の方が近いケースがあるため)

時間の目安 15 分程度

同じ教育委員会内の学区をなくす

複合できるものもはしても良いと思う

インフラ

住民のためのインフラ

市内、全戸下水道化は難しい？

広域交通網

交通との連動

バスを便利に 高速バス

コミュニティバスの利便性を良くするための路線と本数の改善を

福祉

少子高齢化になってきているから、老人ホームや福祉施設を多く設けた方がよい

市民の為

経費(お金)OK 心情？

保育所と老人ホームを併設。(高齢者の生きがいにもなる)

空き小学校の利用

行政の関与度合い  
→ シナジー  
→ 声がうるさい  
→ 小さな政府

公共施設の利用上の課題

公共施設の利用方法が分からない

公共施設の場所が不明

公共施設を使っていない

利用者からの収益より施設の維持費の方が高い？

〇〇会館といった施設は、年配の人が使うイメージ

市民サービス向上が必要

公共施設の名前じゃなくてそもそも「何が出来るかマップ」を作って利用者を増やせば良い

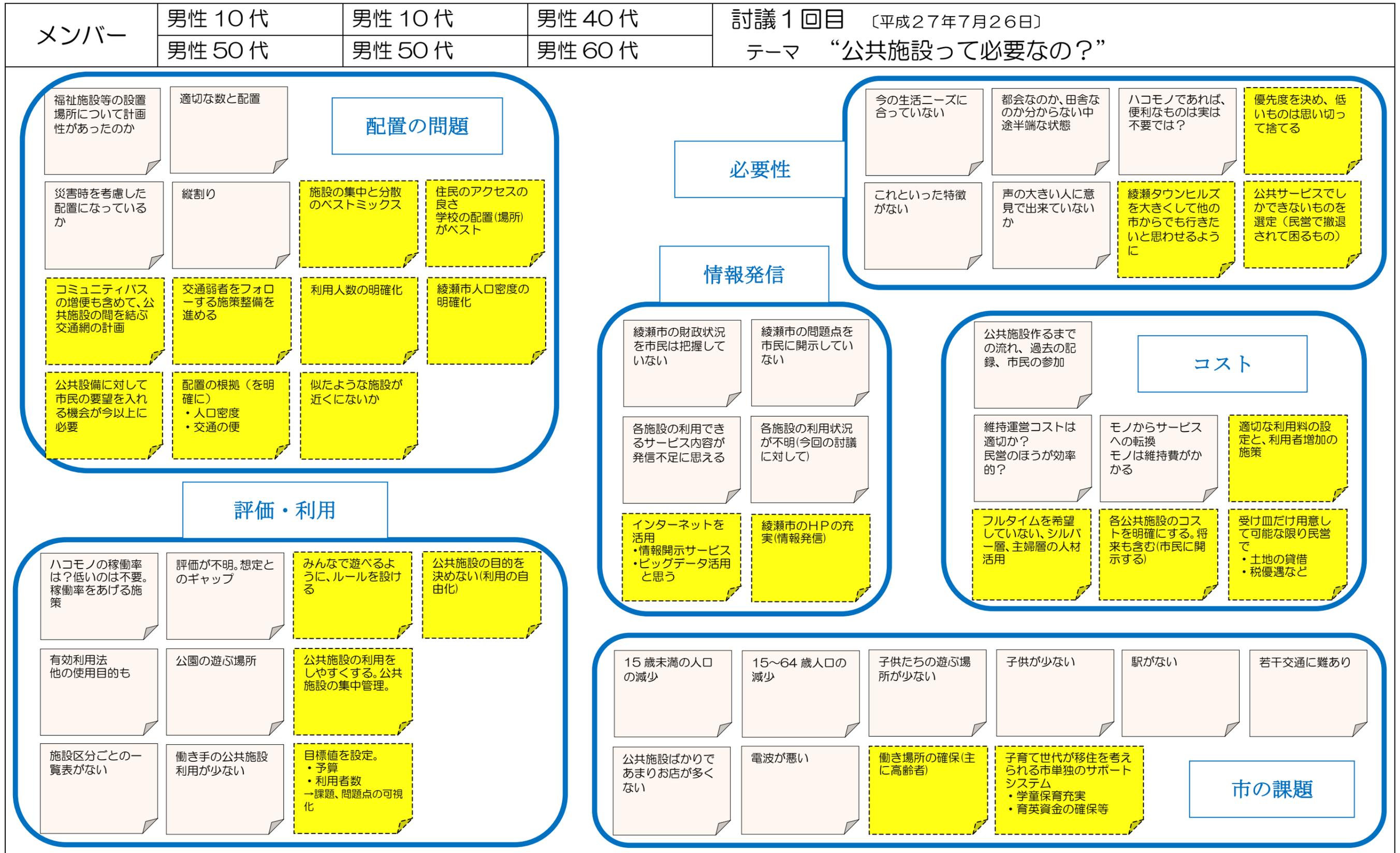
グラウンド及び広場等、誰もが使えるような整備を。使えない整備はいりません

ワンストップサービス 見える化

公共と自治会との 共用

凡例：  公共施設の課題  課題解決の方向性

意見集約シート（4グループ）



凡例：   公共施設の課題   課題解決の方向性

あやせ市民討議会 ～考えよう！みんなの公共施設の未来～

## (2) 討議2回目「施設を見て感じたこと」の成果

### 【現地視察の概要】

- ・ 討議2回目の実施前に、市内公共施設への現地視察を行った。
- ・ 現地視察の対象施設は、「基本方針（素案）」に掲げる3つの柱、「適正な維持管理の推進・財源確保」「長寿命化の推進」「総量の適正化・適正配置」のいずれかの課題に直面している施設、市全体の公共施設の課題（老朽化、施設機能の重複等）を象徴的に有し、討議の参考となる施設、効率的な行程が組める施設として、南部ふれあい会館と綾南地区センターを視察した。（各施設40分程度）

### 南部ふれあい会館



外観



視察の様子

### 綾南地区センター



外観

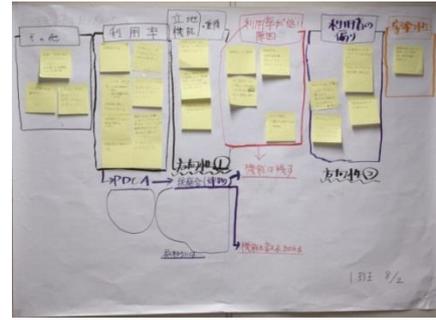


視察の様子

## 1 グループの発表要旨

### ① 利用率の低さ

- ・調理室などは利用されていない。駐車場が少ない。
- ・公共施設の対象利用者は、サークルやグループが主で、そもそも個人向けは、利用対象になっていない。だから、利用率が上がらない。
- ・団体が利用するとしても中途半端に場所が狭い。
- ・全体としては無駄な区割が多い。建物全体のバランス、レイアウトに課題がある。
- ・安全性、特にバリアフリーの遅れ（エレベーターがない、車椅子利用者に優しくない、壁の亀裂など）がある。
- ・良い面も多少指摘されている。和室は災害時に必要なスペースであるし、ほっとするという意見もあった。スリッパの履き替えが面倒といった、実際に視察したからこそこの生の意見もあった。
- ・施設管理を民間委託している点は、明確なメリットが見えない。



《写真：意見をまとめた模造紙》

#### 【課題解決の方向性】

- ◆両施設が近接していたので、方向性としては両施設を統合すべきではないか。

### ② 利用料の課題

- ・高いという意見と安いという意見に分かれた。音楽室のように整備費用がかかっている施設については、利用料金を上げて良いのではないか。

#### 【課題解決の方向性】

- ◆料金についても見直しが必要である。

### ③ 施設のPR不足の課題

- ・多くの参加者が両施設のことを知らなかったように、施設の存在そのもののPR不足は課題として挙げられた。

## 2グループの発表要旨

### ① 利用率の向上

- ・綾南地区センターは古くて、駐車場も少ないので使いづらい。
- ・南部ふれあい会館は、新しいため綺麗だが、図書室は規模が中途半端、修繕費の高さが課題である。
- ・南部ふれあい会館と綾南地区センターを視察先としたことから、施設（機能）が重複していることが明らかで、これぞハコモノ行政という感がある。
- ・両施設に共通する課題は、利用率の向上である。



《写真：意見をまとめた模造紙》

#### 【課題解決の方向性】

- ◆和室は、避難時に必要だが通常時は使いづらい。Wi-fi 環境は使われているのか。こういった事に対して利用者の声を反映した施設に改善する必要がある。
- ◆最近では、色々な施設で間仕切りして自由に部屋の形を変えられる例が見られるので、そういう設備があると良い。
- ◆既にある施設なので、利用者の声を反映し、利用率を向上させて有効活用していくことが重要である。特に、児童・生徒が減っていく中で、学校施設を活用していくことも必要になる。それでも利用率が上がらない場合は、不要な公共施設の統廃合を検討していかななくてはならない。

### ② 痛みの合意形成が必要

- ・綾南地区の住民ではない人からすれば、南部ふれあい会館と綾南地区センターの2施設を1つに統廃合しても良いのではないかと思うが、地域に住んでいる方々の痛みの合意形成が必要である。

#### 【課題解決の方向性】

- ◆地区毎の特色を反映することが重要になる。例えば、綾南のような比較的人口が多い地区は、人口減少していく中で、今後、人が移り住んだり、子どもを産んでもらうなど、市にとって重要な地区である。こうした地区では公共施設は必要ではないか。
- ◆逆に、比較的人口の少ない地区は、公共施設は要らないが、足（コミュニティバスやタクシー券）は必要である。このように地区毎の特色を活かした施策が必要ではないか。

### 3グループの発表要旨



《写真：意見をまとめた模造紙》

#### ① 利用率の課題

- 利用料金が安いのではないかという意見が割と多かった。料金を安くして利用率を高めようという発想はグループ内ではなかった。

##### 【課題解決の方向性】

- ◆ 施設の存在そのものや、可能な利用方法を市民にアピールすべきではないか。
- ◆ 利用料金は、市の条例によって決められているので、市議会において料金値上げの案を提示するなどして、条例を改めていく。
- ◆ また、利用目的によって料金を変えていく方法もある。例えば、南部ふれあい会館を視察した際、最大150人が入る多目的ホールが10人のヨガ教室で使われていた。このようなケースでは、生徒を10人集めて教室を開いていたとするならば、1時間当たり500円の料金は安いと言えるだろう。利用者負担という形で、料金の値上げや、広さや大きさで料金を変えていくという解決策が考えられる。

#### ② 建物の古さと民間活用の課題

- 建物は、昭和56年の建築基準法改正を境に耐震性が異なってくる。

##### 【課題解決の方向性】

- ◆ 災害時の避難場所になっている公共施設については、できるだけ古い建物はなくした方が良い。その跡地は民間に賃貸する（例えば、時間貸し駐車場）など、利用方法を変えていくことが必要である。

#### ③ 民間委託方法の課題

- 現在の民間委託方法が、行政が直接管理する場合の費用を浮かすという発想で行われているならば、その発想をまるっきり変えて委託業者を決めていくことが必要である。

##### 【課題解決の方向性】

- ◆ 民間の力でさらに活用できる、あるいは、利用方法も民間が自由に決められるというような方法に変えていく。

#### ④ エリアの課題

- ・建物の機能が非常に類似している施設が多い可能性が考えられる。

##### 【課題解決の方向性】

- ◆既にある公共施設を統廃合するなどの方法で、重複しないようにしていくことが必要である。
- ◆視察先の施設には会議室が多かった。これに保育園的なものが併設されていても良い。和室がどの施設にもあったが、お年寄りには、和室で座って何かをするのが難しく、腰かけられる洋室の方が使いやすいのではないか。

#### ⑤ その他の課題

- ・災害時の避難に施設が使えるのかどうか。
- ・建物の目的が設置当初のままになっている。

##### 【課題解決の方向性】

- ◆施設の利用目的を集約する。あるいは目的そのものを変える。

## 4グループの発表要旨

### ① 利用率が低く、利用者が固定化している

- ・この課題は、全員から指摘された。
- ・利用している人は何度も利用しているが、利用していない人は全く利用していない状況が見られる。



《写真：意見をまとめた模造紙》

#### 【課題解決の方向性】

- ◆利用率向上のため、利用する文化をつくる。例えば、市として公共施設を積極的に利用するといった方針・法則などをつくること、特化した機能を持つ公共施設をつくる必要がある。南部ふれあい会館にあった音楽室（防音室）のように、機能が特化したものを作れば利用率が上がるのではないか。
- ◆色々なイベントを企画する。例えば、〇×囲碁、将棋大会などのイベントを企画、実施する必要がある。誰が企画、実施するかは課題である。
- ◆利用しやすさを高める。公共施設の利用時間は決まっているが、利用者が多い施設については平日も含めて利用時間を固定化せずに、利用者がある間はフレキシブルに利用できるように工夫する。それによって、利用率を上げられるのではないか。
- ◆利用率を上げるため、施設によっては利用料を徴収しないという提案もあった。利用料金を安くするか無料化すれば、より施設を利用しやすくなるのは間違いない。市の財政への影響も考えられるが、利用率を高めるという視点では、なるべく利用料金を取らないようにすることが、利用率向上につながる。

### ② 管理・評価方法が定まっていない

- ・管理、評価については、具体的な対応策までは議論に入っていないが、課題として意見があった。

#### 【課題解決の方向性】

- ◆予約方法を一元化することが望ましい。
- ◆せっかく税金を投入して造られた公共施設なので、どのくらい市民が利用しているのか、どれくらい利用率があるのかなど、きちんとしたデータを毎日取れるようにしておくべきである。民間企業に任せっぱなしにせず、市役所として民間委託した効果を検証する必要がある。

### ③ 場所の課題

- ・南部ふれあい会館と綾南地区センターを例にすると、徒歩で数分の距離に近接している。近距離に同じような機能を持った施設が2つあるというのは、常識的に考えておかしい。市民討議会で配布された資料を見ても同じような機能・設備を持った公共施設が近接している例は、少なくとも数か所はあるようだ。

#### 【課題解決の方向性】

- ◆類似した機能・設備を持った施設で近接しているものは集約する。

### ④ 機能の課題

- ・図書室は、一般的なイメージのものと比べて非常に小さいものだった。機能の面からすると、図書室の構想段階で、利用者層、利用者数等のニーズをきちんと把握しておく必要があったのではないか。

### ⑤ 設備の課題

- ・設備の内容に課題が見られる。調理室は現在の利用率を踏まえると、学校の家庭科室等、民間も含め、他施設を十分に活用できる。わざわざ造らなくても良いのではないか。綾南地区センターでは会議室が卓球で利用されていたが、他施設を活用できないか。これは工夫の問題であろう。

### ⑥ コストの課題

- ・コスト、特に管理費用が適正かどうかを判断するだけの基準を、市民は持っていない。

#### 【課題解決の方向性】

- ◆市は、コストの適正性を評価すること、かけるべき所にはきちんとコストをかけているといった情報をPRしていくことも必要である。

### ⑦ 利用料金の課題

- ・視察を行った2施設の利用料金は、基本的に1時間当たり500円であった。

#### 【課題解決の方向性】

- ◆目的や部屋の広さに応じて、多少、利用料金を変えても良いのではないか。利用者にある程度の負担をお願いするということである。
- ◆利用料金の設定は、もう少し細かくするなど、様々な方法が考えられる。市民全体の税負担の公平性を高める方向で、見直すことが必要ではないか。

### ⑧ 建物の老朽化の課題

- ・視察先の施設の中には、築30年を超えている施設もあった。耐震上の問題はないということだが、壁にクラックが多数見られた。

#### 【課題解決の方向性】

- ◆設計を含めて建物のベースは古いので、建物老朽化対策を進める必要がある。

## 討議2回目：全体の成果

- ・複数のグループが指摘した意見に着目し、討議2回目の全体成果（課題・方向性）を次のように整理した。

※3、4グループの「意見集約シート」（A3資料）については、討議3回目に集約。

### ① 利用率が低い

#### 【課題解決の方向性】

- ◆公共施設の利用者層の中心はサークル・グループである。とはいえ、団体利用は固定化し、その団体利用者にとっても、施設が狭い、バリアフリー仕様になっていないなど、現在の公共施設は量、質ともに利用者ニーズに対応できていない。
- ◆一方で、施設全体の利用率を上げるには、脱団体中心利用化＝個人利用者数の増加が欠かせないが、そもそも利用者対象の中心にはない。個人が利用しやすい環境（利用方法や料金設定の柔軟化など）を整えることが、公共施設を利用するという文化を醸成することにもなる。

### ② 地域特性やまちづくりの方向性に即した施設の見直し

#### 【課題解決の方向性】

- ◆利用率向上のためにも、公共施設の機能の重複の解決は不可欠である。そのためには、そもそも施設の設置目的の見直しが重要である。その見直しは、地域の特性や市全体のまちづくりの方向性と整合性のあるものとすることも重要である。その検討と併せて、施設の収支、場所（エリア）、機能のあり方も見直していく必要がある。

### ③ 施設の情報発信不足

#### 【課題解決の方向性】

- ◆利用状況やコストの適正性を評価・判断できる施設情報が、継続的にきちんと収集・整理される必要がある。また、それが、住民合意を含む公共施設の管理・評価・改善の仕組みづくりに不可欠である。

意見集約シート（1グループ）

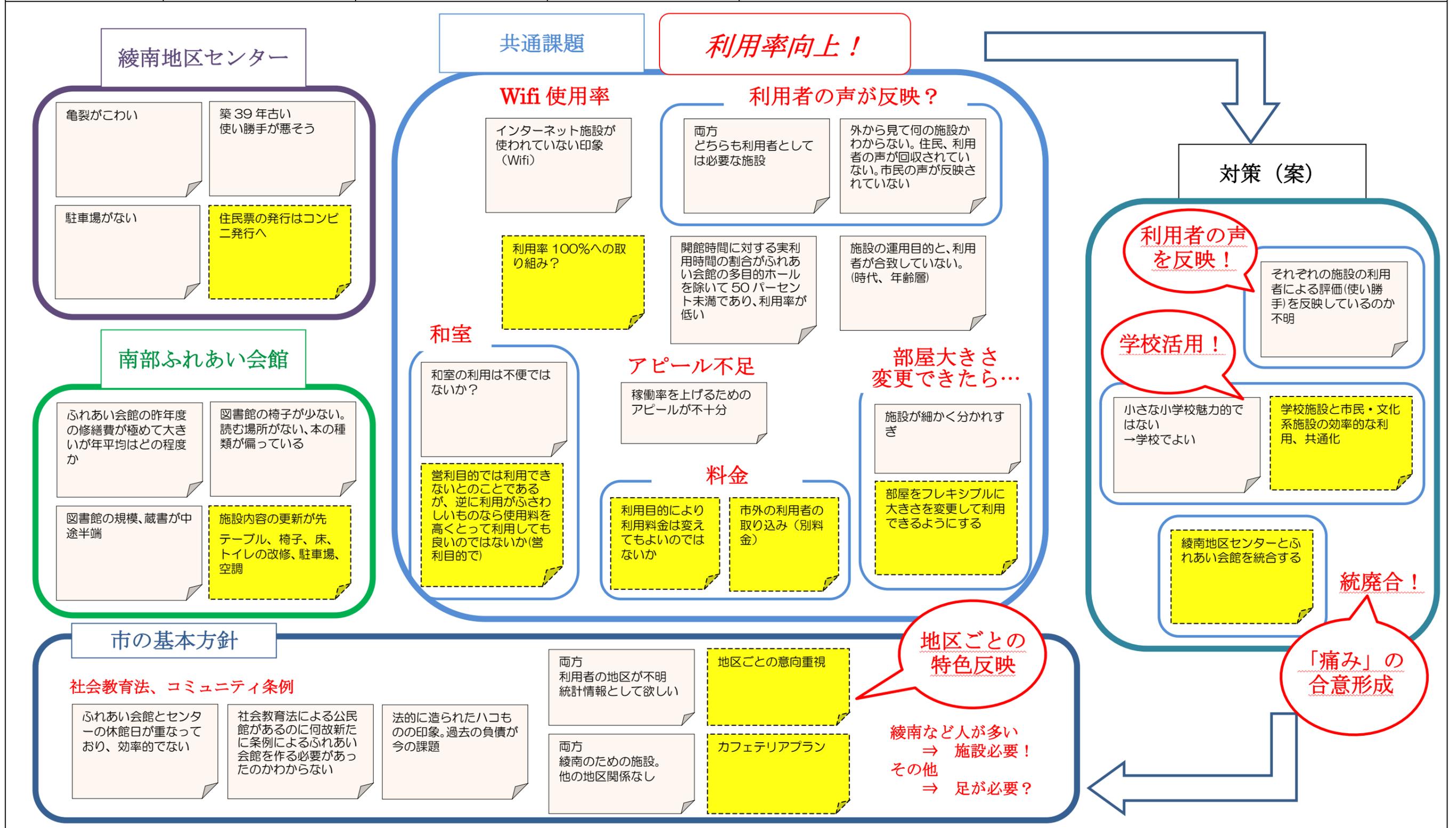
メンバー	男性 10代	男性 50代	男性 60代	討議2回目 〔平成27年8月2日〕 テーマ “施設を見て感じたこと”
	女性 20代	女性 30代	女性 60代	

その他	利用率	立地・機能の重複	利用率が低い原因	利用者の偏り	安全性
<p>民間へ委託するメリットがピンとこない。住民票は非常勤とかお金の面</p> <p>スリッパに履き替えは面倒くさい</p> <p>災害時の避難場所としては和室の部屋は必要だと思う</p>	<p>駐車場が少ない</p> <p>利用率の低い部屋が見直されずに使用され続けている</p> <p>公共施設の見直しが行われていなかった</p> <p>ニーズがない(変わってきている?) 例：SCの中の料理教室ある、個人で会議室を使うニーズがない</p> <p>料金設定の根拠が不明</p> <p>南部ふれあい会館設備が整っているのに利用率が高くないのは残念</p> <p>両施設とも利用料が高い</p>	<p>ふれあい会館と綾南地区センター個別設置は二重投資ではないか</p> <p>綾南地区センターの必要性があるかわからなかった</p> <p>2館とも館内の施設が重複していて距離も近く同じ役割だったので2つある必要性を感じなかった</p>	<p>調理室は無駄の象徴だ</p> <p>両施設ともに維持管理費の高さに少々驚いている</p> <p>特に南部ふれあい会館はいかにも公共施設の象徴的な箱物に感じた</p> <p>ルール(現在) 公益的活動している(非営利)</p>	<p>公共施設のニーズは、グループ・サークルなど団体が主</p> <p>サークル・グループの人には、自治会館は狭すぎる</p> <p>綾南センターは狭かった</p> <p>南部ふれあい会館 ムダな空間は無いのか？各スペースの使用%バランス的にはどうか？疑問</p> <p>綾瀬南地区センター バリアフリーの点が不完全。エレベーターが無く、車いすの利用が1階に限られる</p>	<p>綾南地区センターの建物に亀裂が多くあって、安全性の面で不安だった</p>

凡例： 公共施設の課題 課題解決の方向性と具体策

あやせ市民討議会 ～考えよう！みんなの公共施設の未来～

メンバー	男性 10代	男性 10代	男性 20代	討議2回目 〔平成27年8月2日〕 テーマ “施設を見て感じたこと”
	男性 50代	男性 50代	男性 60代	



凡例：  公共施設の課題  課題解決の方向性と具体策

### (3) 討議3回目「今後の公共施設のあり方」

#### 1グループの発表要旨



《写真：意見をまとめた模造紙》

#### 方向性1：統廃合を進める

##### ① 統廃合が必要ではないか

###### 【課題解決の方向性】

- ◆利用率が低いならば、利用率の高い施設に併設するという考え方がある。それを実施するならば、早い段階で統合することや、機能が重複する施設を統廃合する必要がある。
- ◆南部ふれあい会館、綾南地区センターを例にすると、住民票の発行業務、その他利用率の低い機能を南部ふれあい会館に移設してはどうか。

##### ② 統廃合後に残すべき施設機能がある

###### 【課題解決の方向性】

- ◆地区毎に置く施設機能としては、
  - ・調理室・会議室でないものをつくる
  - ・多目的に利用できるようにする
  - ・機能を小・中学校へ移動させる（小学校の施設を活用する）
- ◆加える要素としては、
  - ・住民票はどの公共施設でも取れるようにする
  - ・図書室の機能はいろいろな地区にあった方が良い
  - ・避難所の機能はさらに強化すべき

##### ③ 施設の建て替え時に考慮すべき機能がある

###### 【課題解決の方向性】

- ◆建て替える場合は、あまり細かくスペースを区切らず、大きなスペースを確保しつつ、多目的に利用できるようにする。

#### 方向性2：残す施設（まだ使える施設）を有効活用する

##### ① 民間に貸し出す

###### 【課題解決の方向性】

- ◆病院、床屋等、誰もが使うような施設を公共施設の中に入れて、使い勝手が良く、利用率が高くなり、収益面でもプラスになるのではないかと。

##### ② 若者にとって魅力的な公共施設をつくる

###### 【課題解決の方向性】

- ◆具体的な提案としては、大きな体育館や図書館、あるいは誰もが申請なしで気軽に使えるフリーのオープンスペースがあると良い。

### **方向性3：残せない施設の扱い**

#### **【課題解決の方向性】**

- ◆売却するか貸すなどして、その分の予算を他の公共事業等に回すというようにお金の使い道を考えることが必要である。

### **その他、方向性1から3と関連する意見**

- 施設の利用率を上げるには、HP上で施設の利用状況を確認できるようにし、個人でも施設の空き状況を確認の上、利用申し込みできると良い。
- 視察した南部ふれあい会館を例に考えると、同館の図書室のスペースを大きくしたり、地域の人が親しめる朝市、バザーなどを開くと利用率が上がるのではないか。
- 方向性1から3をPDCAで回す必要がある。
- 公共施設の見直しのルールづくりが重要である。
- 市民の意見を聞く。アンケートを取ったり、高校生の意見を聞くことが重要である。

## 2グループの発表要旨

### 方向性1：収入確保

#### ① 利用者の負担増を考える

##### 【課題解決の方向性】

- ◆必ずしも全ての公共施設で利用料金を上げるとい  
うわけではない。必要な施設については、受益者負  
担の観点から値上げしても良い施設やスペースが  
あるのではないかと。

#### ② 民間への賃貸を考える

##### 【課題解決の方向性】

- ◆むやみに貸し出すというのではなく、当然に公共施設にふさわしい事業目的とする企業  
等への貸し出しを考える必要がある。
- ◆場合によっては、施設や設備が不要という場合には売却するという発想もある。また、  
空いたスペースを別の機能で有効活用することも考えられる。
- ◆実現性の課題はあるが、ネーミングライツ制度のさらなる活用も考えていくべきである。

### 方向性2：コスト削減

#### ① ICT化と民間委託を進める

##### 【課題解決の方向性】

- ◆住民票の交付等は、ICT化により様々な施設で実施可能であろう。民間委託もさらに  
進めていくべきである。

#### ② 統廃合を考える

##### 【課題解決の方向性】

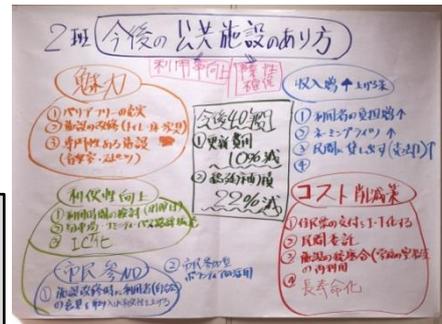
- ◆今回の視察先は、南部ふれあい会館と綾南地区センターの2施設のみだったが、市内全  
域に広げて考えると、似たような機能や設備を持った公共施設が近い所にある例が多く  
あることが推測できる。これらは統廃合しても良いのではないかと。
- ◆学校の空き教室を積極的に有効活用していくべきである。
- ◆建物自体の長寿命化もある程度考えていかななくてはならない。

### 方向性3：利便性の向上

#### ① 魅力を上げる

##### 【課題解決の方向性】

- ◆バリアフリーを進めるなど、施設設備を改修する。トイレや床、家具が汚ければ多くの  
利用者が来ることは望めない。一定のお金をかけて利用率が上がるならそうした投資は  
行うべき。



《写真：意見をまとめた模造紙》

## ② 専門性の高い施設にする

### 【課題解決の方向性】

- ◆同じ目的の施設やスペースが2つ以上ある場合は、それぞれに特徴を持たせる（メリハリをつける）。例えば、音楽室とか屋内スポーツ施設で近い所にあるものは、それぞれにより特徴を持たせる。単一の機能やスペースしかない施設についても、特徴をより際立たせる必要がある。

## ③ 利便性の向上

### 【課題解決の方向性】

- ◆利用時間の再検討が必要である。一律に決まっている利用時間を施設によっては閉館時間を遅らせたり、短くするという方法も採りうるのではないか。また、視察で見た施設についても互いに近接していたが、ともに休館日は同じである。2館が一度に休館するのではなく、どちらかの休館日を変えるのが良い。
- ◆駐車場がない、または少ないという課題については、簡単に駐車場を増設できないが、シニアの中には車を運転しない人もいるので、コミュニティバスの停留所を設けて、市民が行きたい公共施設に行けるよう利便性を高める。

## ④ ICT化を進める

### 【課題解決の方向性】

- ◆図書館の蔵書を電子図書にする。図書館だけではなく、自宅に居ても図書館の蔵書を見られるようにする。

## ⑤ 市民の参加を促進する

### 【課題解決の方向性】

- ◆施設を改修する場合、検討時点から市民に加わってもらい、どういう施設にするかを考えてもらう。市民の意見を取り入れることによって、使いやすい施設にでき、市民も意識が高まり使おうという想いも湧く。それによって利用率が上がることにも繋がるのではないか。

## 方向性1から3の総括

- ・以上の取り組みは、それぞれ独立した話ではない。「事業性の確保」と「利用率の向上」は互いに関連している。今後は、この課題を一体的に検討し、具体的な対策を着実に実施していくことが重要である。

### 3 グループの発表要旨

#### 方向性 1 : 発想の転換

##### 【課題解決の方向性】

- ◆どんな団体がどんな活動をしているのか、インターネットや広報などで知らせるといった提案があった。パソコンを使う人、広報を見る人は限定されるので、広報の活発化自体が永遠の課題と言えそうだ。
- ◆古い公共施設は思い切って解体して駐車場にする。単なる管理委託ではなく、より利用しやすくするという目的を持って委託していくことが必要だ。
- ◆老朽化した施設は、近隣でその機能をカバーできる施設がある場合は思い切って廃止する、民間の力を借りてリノベーションをする。例えば、間仕切りをなくして柔軟に運営できる空間づくりを行う必要がある。



《写真：意見をまとめた模造紙》

#### 方向性 2 : 建物・設備の分散化、他施設への移行

##### 【課題解決の方向性】

- ◆公共施設の設備や建物が重複している地域を解決していくため、建物を分散化する、他の建物に移行する、さらには、市役所の出張所のような機能を持たせる。
- ◆施設の目的を転換させることが必要である。施設を作った当時の目的と、地域が抱える現状や災害といった今後の課題とを突き合せて、目的を考え直すことが必要である。

#### 方向性 3 : みんなの発想で新たな施設モデルをつくり、情報発信する

##### 【課題解決の方向性】

- ◆今ある施設をモデルにして、みんなの発想を持ち寄って、「こういう施設だったら使いやすい」とか「良い施設」という情報を市外にも情報発信すると良い。市外から綾瀬市にそんな施設があるのか、一度見学に行ってみようと思われるような、市民が自慢できる施設になると良い。
- ◆起業家も使いやすい施設にする工夫が望ましい。
- ◆和室については、当初の設置目的と異なるかもしれないが、子育てのスペースとして開放するような使い方があっても良い。
- ◆目的にもう一度立ち返って施設を考え直して、発想を転換していくことが重要である。

## 4グループの発表要旨

### 方向性1：集約を考えていくことが不可欠

#### 【課題解決の方向性】

- ◆イメージとしては、コンビニのようにその公共施設に行けば、何でもできるような施設を整備していくことが望ましい。



### 方向性2：施設整備にあたって機能を限定しない

《写真：意見をまとめた模造紙》

#### 【課題解決の方向性】

- ◆機能を限定せず、使いやすい施設を作っていく必要がある。

### 方向性3：集約化した上で利用率を上げていくことを考える

#### 【課題解決の方向性】

- ◆利用促進協議会のようなものを設置し、利用率を上げるための積極的な施策を打つ。例えば、施設内で子どもとお年寄りの交流の場を増やす、学童保育の設備を併設する、イベント（映画上映会等）を企画する、サークル活動を推進するほか、自治会と共同して利用を考えていくなど、1つのコミュニティ活動の拠点に公共施設を再生していくことが望ましい。
- ◆コーディネートの観点では、指定管理者に管理だけではなく運営の中味も任せるようにしていく工夫が必要である。

### 方向性4：コストを考え直す

#### 【課題解決の方向性】

- ◆現在の受益者負担のままで良いのか、その負担水準も考え直す必要がある。
- ◆施設の有効活用として、公共施設の屋根でソーラー発電をして収益を得ていくなど、費用削減だけでなく、収入も含めてコストをトータルに考えていくことが重要だ。

### 方向性5：計画、評価、改善のサイクルを回す

#### 【課題解決の方向性】

- ◆施設を設置した当初に想定していた効果の範囲に止まらず、更にその先の効果が出るように計画と評価をしっかりとって、改善を行っていくというPDCAサイクルを回していくことが重要である。
- ◆全ての公共施設を対象に、例外なく統廃合を含む適正配置を計画、管理できるようにくみづくりも必要である。

### 方向性1から5の総括

- ・集約化を出発点にし、多機能化・複合化し利用率を高めていき、コストを最適化し無駄をなくすという流れで公共施設のあり方を見直していく必要がある。

## 討議3回目：全体の成果

- 複数のグループが指摘した意見に着目し、討議3回目の全体成果（方向性・解決策）を次のように整理した。

### 方向性1：既存施設の再編は不可欠である

- 施設の必要性を抜本的に見直す。（施設の売却、集約・統廃合（多機能化・分散化、他施設への移行など））
- 残す施設については有効活用をさらに進めるとともに、建て替え時には、将来的な利用需要にも対応できるよう、可変性の高い機能を持たせる。

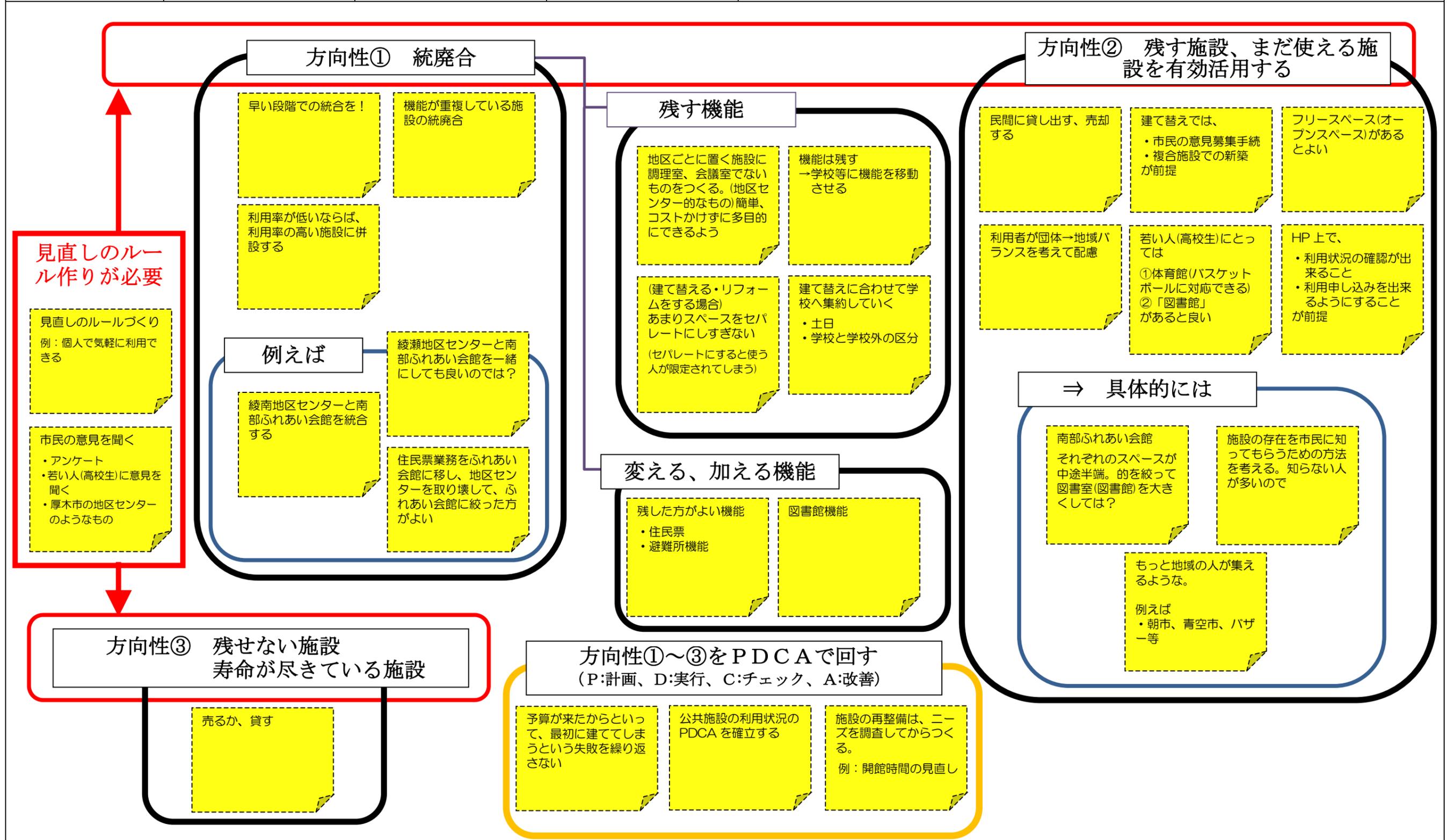
### 方向性2：事業性向上を追求する

- 公共施設といえども、最大限収入確保とコスト削減に取り組み、施設の運営管理の事業性を高める。

### 方向性3：施設の魅力向上を追求する

- 施設そのものの魅力向上が利用率向上に不可欠である。魅力向上のためには、バリアフリー化などの建物・設備の性能向上と、施設の複合・多機能化や専門化による利便性向上に取り組む。
- これらの魅力向上の前提には、施設設置目的の見直しが必要だが、そのためには、従来の公共施設からの発想を転換する。

メンバー	男性 10代	男性 50代	男性 60代	討議3回目 〔平成27年8月2日〕 テーマ “今後の公共施設のあり方”
	女性 20代	女性 30代	女性 60代	



凡例：  課題解決の方向性と具体策

メンバー	男性 10代	男性 10代	男性 20代	討議3回目 〔平成27年8月2日〕 テーマ “今後の公共施設のあり方”
	男性 50代	男性 50代	男性 60代	

魅力

- ①バリアフリーの充実
- ②施設の改修（トイレ・床・家具）
- ③専門性のある施設  
（音楽室、スポーツ）

利便性向上

- ①利用時間の検討（開館日）
- ②駐車場・コミュニティーバス  
路線拡充
- ③ICT化

市民参加

- ①施設改修時に利用者（自治会）  
の意見を取り入れ利便性を上  
げる
- ②市民参加型ボランティアの活  
用

利用率向上

事業性確保

収入増 ↑ 上げる策

- ①利用者の負担増 ↑
- ②ネーミングライツ ↑
- ③民間に貸し出す（売却） ↑

コスト削減策

- ①住民票の交付をIT化する
- ②民間委託
- ③施設の統廃合（学校の空教室  
の再利用）
- ④長寿命化

今後40年間

- ①更新費用  
**10%減**
- ②総延床面積  
**22%減**

意見集約シート（3グループ）

メンバー	男性 50 代	男性 60 代	女性 10 代	討議 2 回目、3 回目 〔平成 27 年 8 月 2 日〕 テーマ “施設を見て感じたこと”、“今後の公共施設のあり方”
	女性 20 代	女性 40 代	女性 50 代	

### 施設の目的 多様な意見をまとめる

会議室が多くあるが、保育園的なものがない

和室の室（部屋）数が多い

災害時に使えるのか（地区センター）

正規職員と非常勤職員の違いは？

### 目的の変更

1つの施設を使いモデルづくり(将来に向けた)

利用目的毎に集約

### 用途を考え直す

建物使用目的が当初のまま

和室  
放課後の子供たちへ開放

起業家が利用できる建物が必要ではないか

子供の利用しやすい施設に変えていく。重複2件中1件を

### 距離、エリア

特性が違って、近隣に機能が近いものが2つあるのどうかと…？

設備が重なっている

建物が重なっている

### 重複をなくす

建物を分散出来たらなあ・・・移転

新しい建物に統合

もっと市役所の支所が必要

タクシー相乗券を発行

### 造りが古い → 民間活用

建物が古い(昭和 55 年以前の建物)

民間委託の事務室が思ったより広い

綾南センターは古い

レイアウトが古い。役所っぽい、暗い

### 解体・廃止

解体して駐車場利用

老朽化施設は近くでカバーできる施設があれば思い切って廃止

### 民間活用

民間委託の方法を変更する

民間の力でリノベーションする

### 利用率を高める → 存続

### 利用料金

利用料金が安いのに利用率が低い

利用率低い

利用料金が安い。

利用料を部屋によって差をつけたらどうか

### 貸出等

利用目的によって利用を決める

空き時間の民間への貸出

### 値上げ

議会にあげて値上げする

### 広報・宣伝

宣伝・利用方法のアピールをする  
(宝のもちくされにならないように)

広報活動を活性化させる

広報などでどういった団体がどのような活動をしているのかを載せて誰もが利用しやすくする

凡例：  公共施設の課題  課題解決の方向性と具体策

あやせ市民討議会 ～考えよう！みんなの公共施設の未来～

37

意見集約シート（4グループ）

メンバー	男性 10代	男性 10代	男性 40代	討議2回目、3回目 〔平成27年8月2日〕 テーマ “施設を見て感じたこと”、“今後の公共施設のあり方”
	男性 50代	男性 50代	男性 60代	

利用率

利用状況が低い	利用者が少ない(平均に見て)	イベントを行う	利用を促す文化作り	施設機能をもっと特化したものに変えていくこと	・時間を決めない ・多目的(防音・防振) ・利用料金を取らない
・もっとアピールするべきだと思った ・2つの公共施設を今日初めて知った ・利用率を上げるべき	利用者が固定化していないか	コミュニティ活動の拠点に再生	イベント企画立案→施設アピール	まず知ってもらうために、イベントの企画をする。例：高校の茶道部と茶道クラブの交流の場を提供する	映画。DVD上映会
利用促進の協議会の設置	大きいモニターを置く。友達で集まってゲームができるように	人が集まる工夫 イベントを企画。サークル活動の推進。自治会との協働	老人と子供の交流会	学童保育や塾等を併設	指定管理に任せるのは？ コーディネーター

公共施設の必要性  
使用目的、何を求めているのか等についての討議が必要

予約方法の一元化？  
利用時間のフレキシブル化

現在の社会的な課題から必要なグループ別、目的別の利用内容を作っていく協議会の設置

利用者及び利用率等が管理されていない(市役所で一元管理が必要と思われる)

民間企業委託の効果  
を明確化。民間企業の評価

全ての公共施設は統合管理する。(管理項目を具体的に)

計画と評価(市民へ公開)をしっかりと行い、改善を図っていきける体制づくり → PDCAサイクルを回す

管理・評価

機能

施設の機能や中身と利用側のニーズがみ合っていない

図書館についてはスペース的にも機能面においても必要性の議論がされていないのではないか

休日利用が多いのであれば、学校を開放すれば？  
調理室→家庭科室  
卓球・バドミントン→体育館

地域の課題を今の視点で捉えなおして、そのための活動を行う場とする

場所

同じ目的の公共施設が近くにある(計画性がない)	歩いて行ける場所に同様の機能のある施設がある	綾瀬市の公共施設は同一目的なのに近くにある	地区センターとふれあい会館が市内全体で重なって近い場所にある。一カ所で良いのでは？
多目的な部屋。機能で限定しない。和室は使いづらい	和室の見直し。使用区分を細かく設定しない使い方	集約化して多目的利用が出来るようにする。→コンビニで公共料金支払いや宅急便、ATM等ができるようなイメージ	多機能複合化
集約 3分の2	同一目的の公共施設は1カ所に統合する。(2~3年目途)	公共施設統廃合基準を作成する	

コスト

利用におけるコスト意識がみられない	管理費の費用がかかりすぎている	特に南部ふれあい会館の修繕費の410万円が高い
利用料は均一500円で良いのか 部屋の大きさが格差を設けたら	利用料設定の見直し	受益者負担の組み直し
屋根貸しソーラー		

建物

古い建物は安全性が不安。耐震対策はしているかどうか  
→ 内壁にかなりクラックがある

その他

学校から考えるべし！！

凡例：  公共施設の課題  課題解決の方向性と具体策

あやせ市民討議会 ～考えよう！みんなの公共施設の未来～

## 5 まとめ

### (1) 意見集約

今回の討議会は、2日間を通じ3つのテーマについて討議を行った結果、

『公共施設の適正配置に向けた課題』

『公共施設のあり方（方向性）』

に関する意見を次のとおり集約することが出来た。

#### 【今回の討議会で多数意見が出た課題は『利用率の低迷』】

- ・各グループにおいて最も焦点になった共通課題は、公共施設の「利用率の低さ」だった。利用率低迷が指摘される公共施設は多種多様で、原因も多岐にわたったため、討議会全体で解決の方向性を絞り込むまでには至らなかった。
- ・一方で、低迷の構造的要因を衝いたと見られる意見が、複数グループから共通して見られた。

#### 【利用率低迷の6つの構造的要因】

##### ① 利用者層の偏在

- ・実際に、公共施設利用者は、高齢者世代、子育て世代が中心だが、利用者数は少数安定化している。さらに、現在の施設サービスも利用者満足度を充たしている水準にはない。
- ・現役世代に至っては、公共施設の利用どころか存在自体を認知していない。

##### ② 更新経費の財源が足りない

- ・本市の投資余力と公共施設の更新経費が均衡するには、今後40年間に施設総量を概ね3割減の目標を実現しなければならない。
- ・例え、この目標を公共施設の運営管理費の一律削減によって達成したとしても、サービス低下は避けられず、さらなる利用者離れによる利用率低下を引き起こす可能性が高い。
- ・したがって、小手先の改善ではない抜本的な見直しが不可欠である。すなわち、売却、統廃合、複合・集約化など、一定程度の市民の痛みを伴う見直しはやむを得ない面がある。今後40年間にかかる更新費用を市の財政力で賄うことは困難という見込みを市民が直視し、これを公共施設適正配置の出発点として確認・共有できた意義は大きい。

##### ③ 施設の要否から見直す（売却、統廃合、複合・集約化を含む）

- ・討議会では、建ってしまった施設は当面存続するしかないという意見がある一方で、なぜ、こんなに利用率が低いのか？、そんな施設になぜ毎年何百万円も維持管理費がかかるのか？という疑問も多数発せられた。
- ・こうした市民の率直な疑問に対して納得感のある対策を打つためには、発想の転換と大胆な見直しが必要である。

#### ④ 地域特性やまちづくりと整合性があること

- ・現地視察で参加者が得た成果の1つは、全市で考えた場合、施設機能が重複している箇所、場合によってはそれらが徒歩圏内に立地するケースが多数存在する可能性が高いことである。
- ・ただし、施設機能の偏在是正には、少子高齢化やまちづくり対策との整合性も必要である。

#### ⑤ 施設の魅力と事業性向上

- ・魅力については、バリアフリー、省エネ面での建物・設備などの性能劣化、機能面での利用者ニーズとのギャップ、非弾力的な施設レイアウト等の課題が指摘された。
- ・また、事業性については、利用率の低迷、経常経費の固定化などで、施設収支は大幅な赤字が続き、公共公益の設置理念の継承と収支改善の両立が課題である。

#### ⑥ 情報発信とそれを契機としたPDCAの実行、それらプロセスへの市民参加の必要性

- ・公共施設マネジメントの実状や方針などについての情報発信とそれを契機としたPDCAの実行、それらプロセスへの市民参加の必要性が指摘された。
- ・公共施設適正配置への理解と協力を得やすくするには、計画・評価・改善に至る一連のPDCAが必要だが、まだその仕組みは未確立である。
- ・今回の市民討議会を端緒に、今後も市民参加の場面と機会を設けていく必要がある。

### 【利用率低迷の解決に向けた「3つの方向性」】

#### ① 利用者の偏在性の捉え方を「アクションプラン」等に反映する

##### （構造的要因①と⑤の改善の方向性）

- ・施設別に、どの世代を主対象として利用需要を取り込むのか。その適正配置をどのように優先順位化するのかを「アクションプラン」等に反映することが必要である。
- ・その上で、建物・設備の「性能向上」、複合・多機能化や民間委託などによる「事業性向上」を図り、施設の「魅力を高める」ことで、利用率の向上を図っていく必要がある。

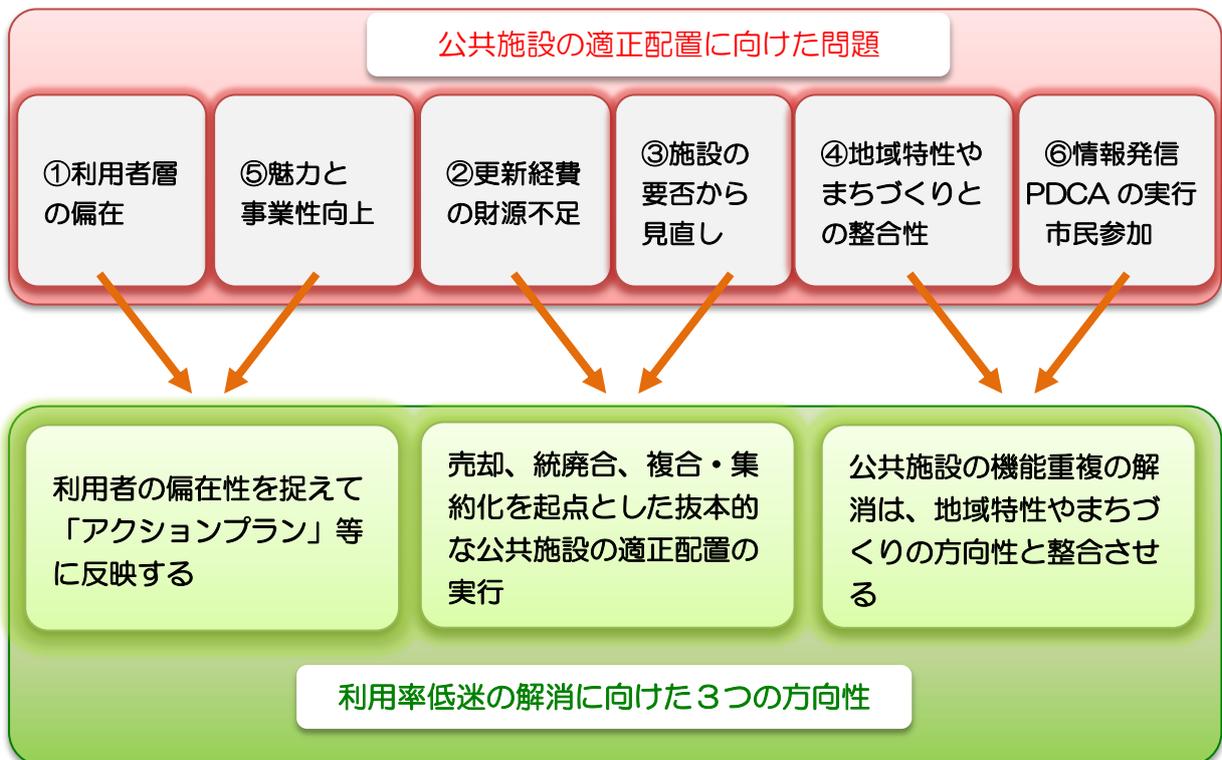
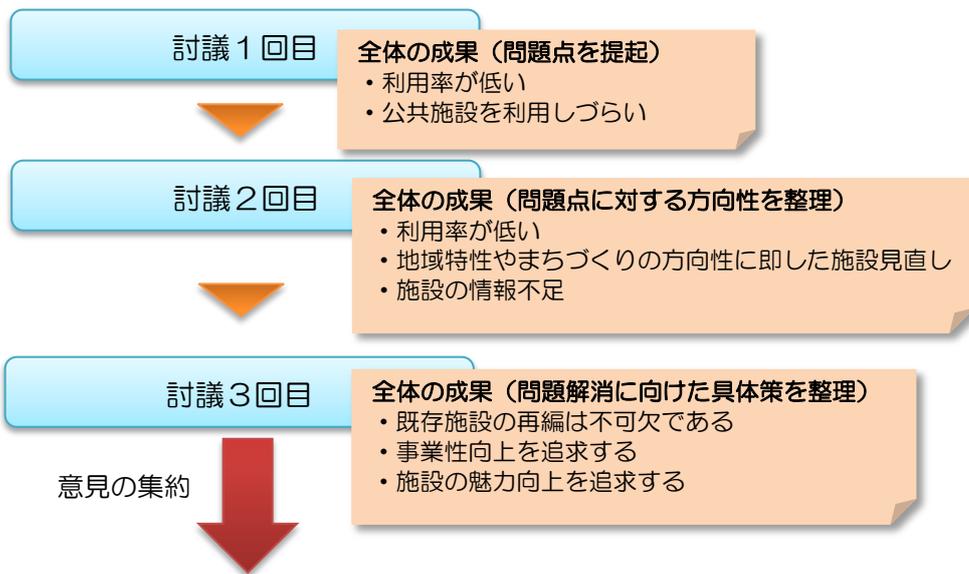
#### ② 売却、統廃合、複合・集約化を起点とした抜本的な公共施設の適正配置の実行

##### （構造的要因②と③の改善の方向性）

- ・抜本的とは、小手先の改善ではなく、売却、集約・統廃合など「市民の痛みを伴う見直し」が必要である。
- ・これは、今後40年間にかかる更新費用を市の財政が賄えない公算が強いことを討議会参加者が理解したことで得られた重要な成果の1つである。
- ・公共施設の更新経費と投資可能額を均衡させるためには、まず、「統廃合、複合・集約化を進め」、その上で、残す施設の「利用率向上」、施設再整備時の「複合・多機能化」、「利便性向上」と「収入確保とコスト削減」に順次、戦略的に取り組む必要がある。
- ・対象施設については、「アクションプラン」に順次、位置づけ、着実に実行する必要がある。

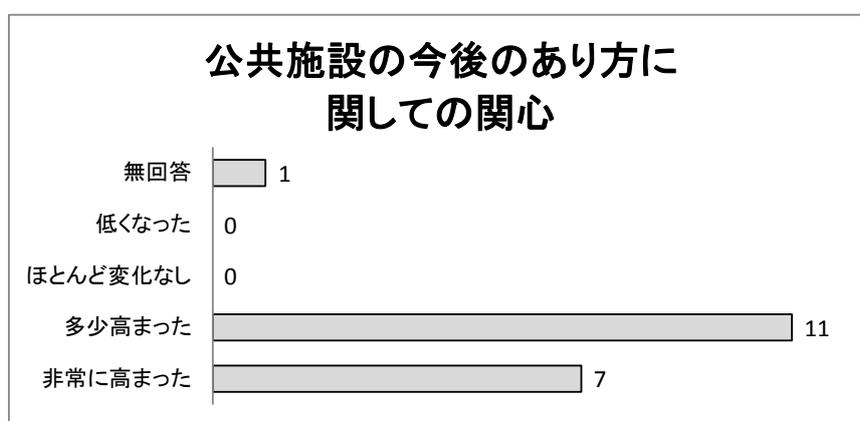
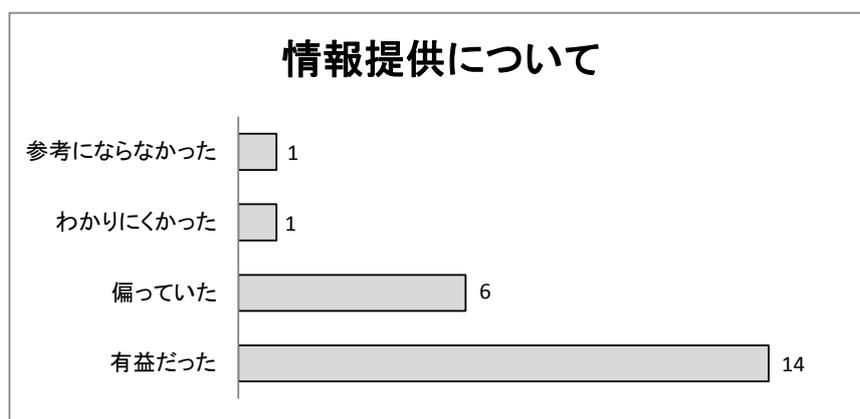
③ 公共施設の機能重複の解消は、地域特性やまちづくりの方向性と整合させる  
(構造的要因④と⑥の改善の方向性)

- 具体的には、「施設コストの最適化」として、受益者負担の見直し、長寿命化による更新経費の平準化、民間活力の活用などが、「場所（エリア）の見直し」として、学校（余裕教室）などの活用が、災害時避難場所として、「機能強化」などが、地域特性やまちづくりの方向性と整合していることが重要である。
- これらの改善の方向性は、「基本方針」や「アクションプラン」に位置づけ、着実に実行していく必要がある。
- また、この一連のPDCA（情報共有など）において、市民参加の場面・場所を設定し、意見の反映・見える化などのフィードバックを実行する必要がある。



## (2) 全体の振り返り・評価

- 事後アンケートの結果から、今回の討議会の主な評価点としては、「情報提供」の有益性が認められていたこと、公共施設の今後のあり方への参加者の関心が「高まった」ことが挙げられる。
- 情報提供については、「やや偏っていた」との評価もあったことから、情報の内容や提供方法について、今後、さらなる改良が望まれる。
- 参加者の関心については、市民討議会の認知度が極めて低かった（約10%）が、討議会への参加を経て、公共施設への関心の高まりが認められ、一定の効果があったと評価できる。



資料：アンケート集計結果より

(1) 施設概要

綾瀬市立 南部ふれあい会館

平成27年8月2日  
市民討議会資料



施設の概要

建築年月日 平成10年4月(築17年)  
延床面積 1,239.79㎡  
開館時間 午前9時から午後10時  
(図書館は午前9時から正午、午後1時から午後5時)

休館日 毎週火曜日・毎月第3水曜日

- ・館内には、会議室が2部屋、多目的ホール、自由学習室、展示室、音楽室、図書館分室、調理室、保育室があります。
- ・災害時の避難場所に指定されています。
- ・今年度から施設の管理・運営を民間企業へ委託しています。

①建設の目的と背景

平成10年、市民の自主的な活動の場として、寺尾いずみ会館の設置に続き、2館目のコミュニティセンターとしてオープンしました。福祉の増進、文化の向上に寄与するための施設として、公民館の目的と共通していることから、中央公民館の分館として運用されています。

②利用状況と利用料等

- ・昨年度の利用人数は40,189人でした。
- ・南部ふれあい会館では南部ふれあい祭りといった催し物が開かれています。
- ・平日は音楽や調理、休日は軽スポーツといった団体が多く利用しています。
- ・各部屋の1時間の利用料金は、自由学習室、図書館分室、保育室は無料、それ以外の部屋は500円です。昨年度の利用料収入は約250万円でした。
- ・昨年度の各部屋の年間開館時間に対する実際に利用されていた時間の割合は、会議室1は29.5%、会議室2は13.9%、多目的ホールは75.5%、展示室は35.8%、音楽室は44.3%、調理室は13.2%でした。
- ・平日と休日を比較すると、休日の方が多くの方が利用しています。
- ・図書館分室は昨年度の利用人数は10,123人でした。

③維持管理費等

- ・昨年度は年間の維持管理に約1,550万円かかりました。
- ・主な内訳は、人件費約450万円、消耗品費約10万円、光熱水費約440万円、修繕費約410万円、その他の維持管理費約240万円です。
- ・維持管理費の合計を市民一人当たりに換算すると、約184円になります。

メモ



## 綾瀬市中央公民館 綾南地区センター

平成27年8月2日  
市民討議会資料

### 施設の概要

建築年月日 昭和51年4月（築39年）  
延床面積 579.58㎡  
開館時間 午前9時から午後10時  
休館日 毎週火曜日・毎月第3水曜日

- ・館内には、会議室が2部屋、学習室、自由学習室、休養室、調理室があります。
- ・市役所本庁の支所機能を持っており、住民票等一部の証明書の発行を行っています。
- ・災害時の避難場所に指定されています。
- ・今年度から施設の管理・運営を民間企業へ委託しています。



### ①建設の目的と背景

昭和51年4月、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的として、綾瀬町公民館、早園地区センター、吉岡地区センターに続き、3つ目の公民館として、オープンしました。その後、昭和53年に市制が施行され、昭和54年11月に綾瀬市立中央公民館が完成し、その分館の位置付けとなりましたが、市民の公民館活動はますます盛んになっています。

### ②利用状況と利用料等

- ・昨年度の利用人数は14,284人でした。
- ・綾南地区センターでは小学生向けの体験講座といった催し物が開かれています。
- ・平日は子育て、休日はコーラスといった団体が多く利用しています。
- ・各部屋の1時間の利用料金は、自由学習室は無料、調理室は350円、それ以外の部屋は500円です。昨年度の利用料収入は約112万円でした。
- ・昨年度の各部屋の年間開館時間に対する実際に利用されていた時間の割合は、第1会議室は33.7%、第2会議室は3.1%、学習室は29.0%、休養室は10.1%、調理室は6%でした。
- ・平日と休日を比較すると、平日の方が多くの方が利用しています。
- ・昨年度発行された証明書の件数は、全発行件数に対して7%でした。

### ③維持管理費等

- ・昨年度は年間の維持管理に約800万円かかりました。  
主な内訳は、人件費約550万円、消耗品費約7万円、光熱水費約130万円、修繕費約33万円、その他の維持管理費約80万円です。
- ・維持管理費の合計を市民一人当たり換算すると、約95円になります。

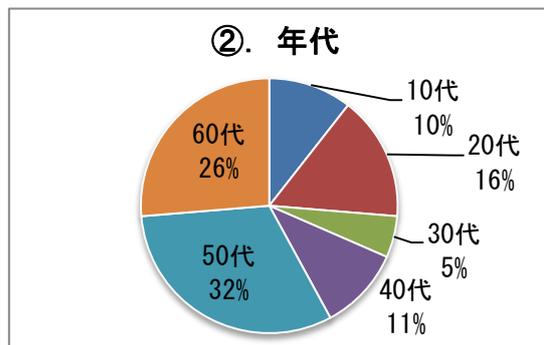
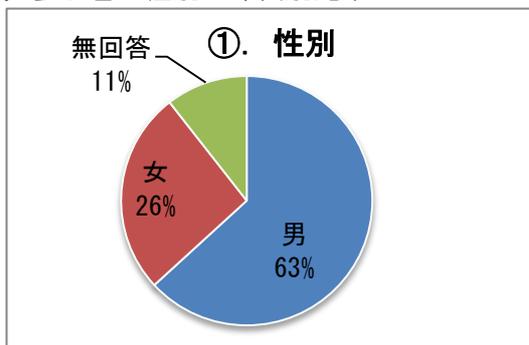
メモ



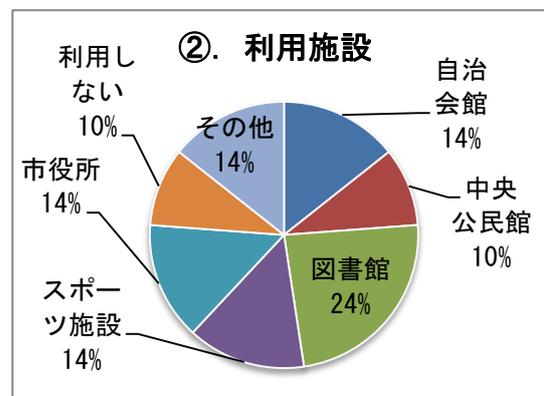
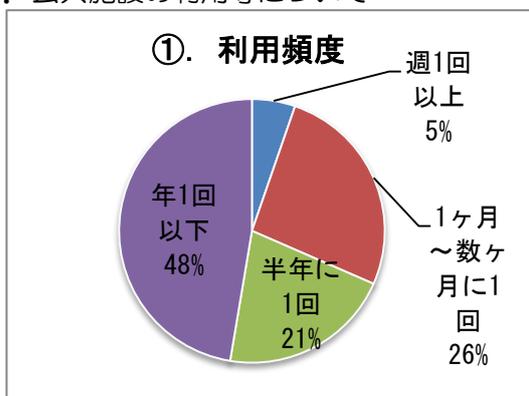
## (2) アンケート集計結果

参加者数23名のうち、19名からアンケートの回答があった。

### 1. 参加者の性別・年代別比率

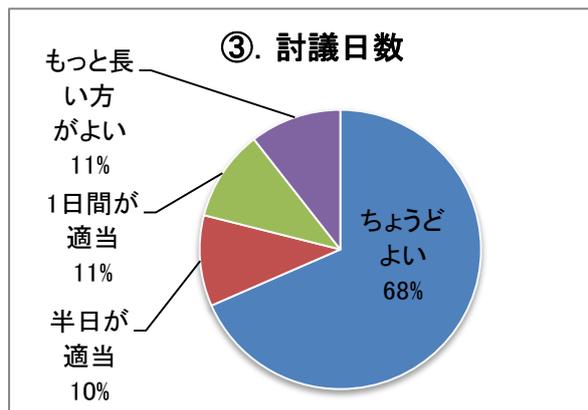
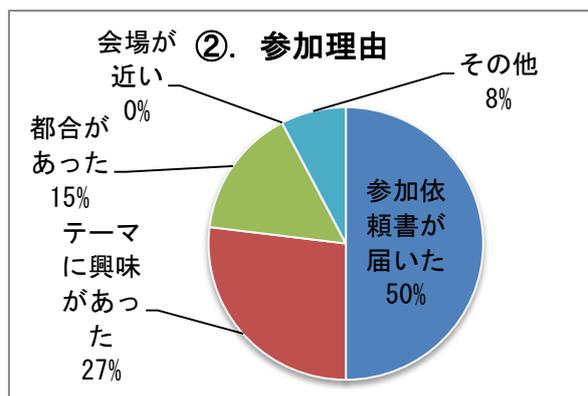
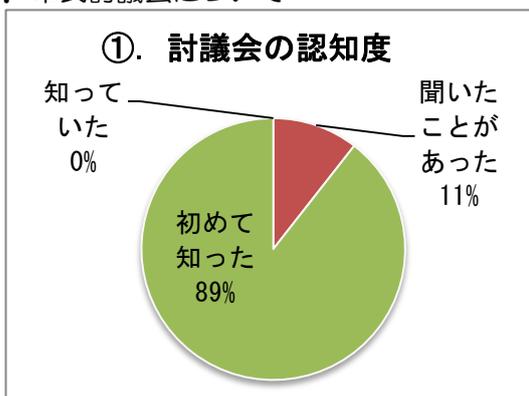


### 2. 公共施設の利用等について

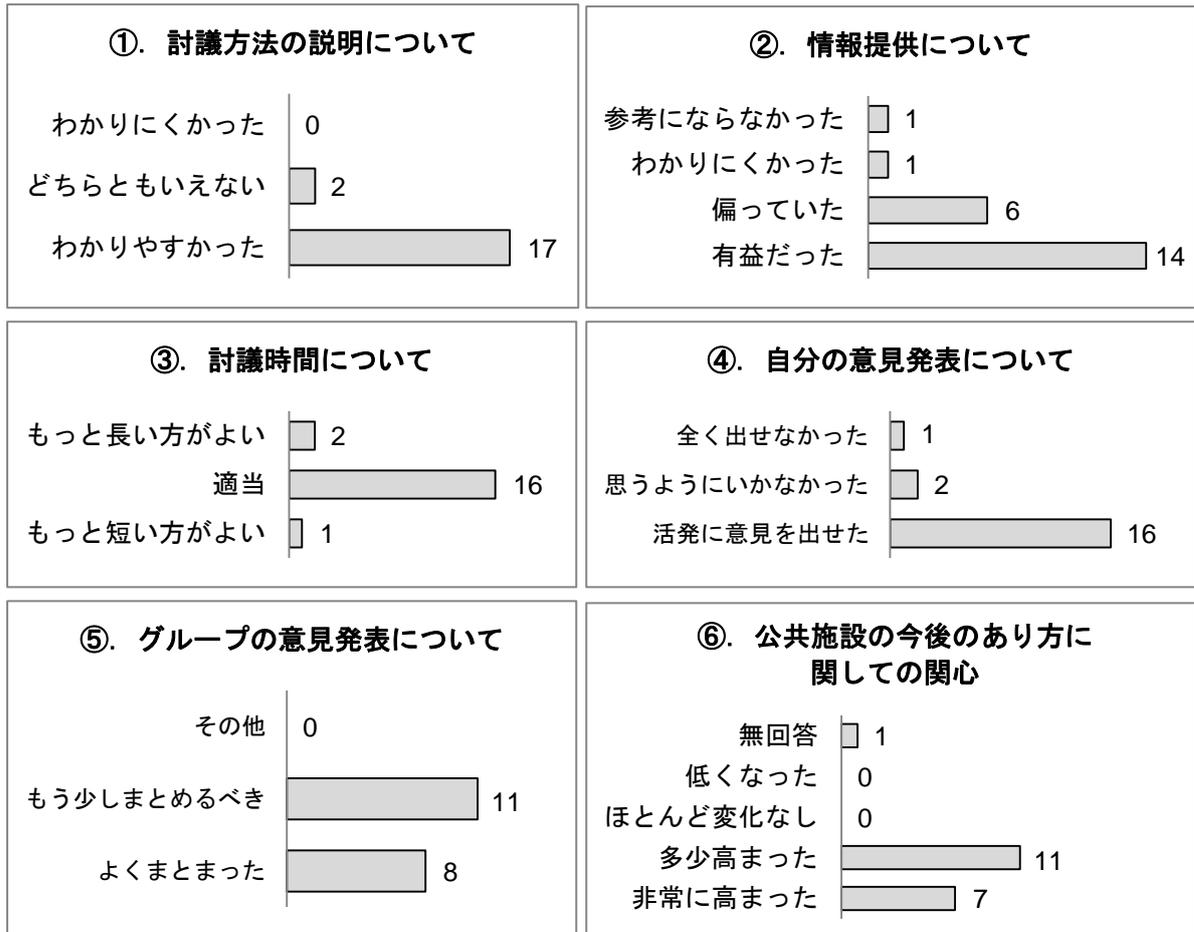


② 利用施設のその他の回答	
・子育て支援センター	・地区センター
・小学校(自治会のソフトボール大会、運動会)	

### 3. 市民討議会について



4. 討議の進行、内容等について



**④. 自分の意見発表についての自由回答**

- ・グループ分けは3名が適切かと思えます。
- ・ブレーストーミングというルールで意見は活発に出たと思う。

**⑤. グループの意見発表についての自由回答**

- ・対立意見があまり出なかったため、まとまった。逆に活発な討議にならなかった。

**⑦. その他の意見・感想についての自由回答**

- ・討議の日程は平日でも良いのでは(2日のうち1日は)。
- ・インターネットで情報収集をしながら出来ればよかった。
- ・高校生を交えての討議は画期的で、将来のことを考える上で有益だが、話の内容が高校生には難しかったように見受けられる。
- ・市民の声を行政に反映させることの大切さを知ることが出来た。
- ・公園内に健康遊具を設置し、高齢者の利用の促進を図ってはどうか。
- ・緑が多く、自然環境が良いので、その点を充実させてはどうか。市としてのセールスポイントにもなると思う。
- ・勉強になることも多く、かつ関心も深まった。
- ・今後も市民の意見を聞く機会を増やしてもらいたい。

**あやせ市民討議会**  
**～考えよう！みんなの公共施設の未来～**  
**実施報告書**

編集・発行

綾瀬市 経営企画部 政策経営課

〒252-1192 綾瀬市早川 550 番地

電話 0467-70-5657

FAX 0467-70-5701

E-mail [su1110@city.ayase.kanagawa.jp](mailto:su1110@city.ayase.kanagawa.jp)